

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「高い志」を持ち、「真のリーダーシップ」を発揮しながら世界で活躍する人物を輩出する学校。

【生徒に育みたい力】

基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
ハイレベルな授業を通じて進路実現を可能にする高い学力を養成すると同時に、学校行事や部活動への積極的な参加を奨励し、たくましい人間力を育成する。
知的探究心をもって自主的に学習する力を養成すると同時に、互いに協力しつつ切磋琢磨することを通じて、優れたチームワーク意識と高い自治能力を育成する。

2 中期的目標

グローバルリーダーズハイスクールとしての特色づくりのため、3つの教育目標を深化させる取組みとともに教員の授業力向上のための取組みを実践する。

1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

グローバルに視点を置いた取組みを継続発展させる。

ア 海外宿泊野外行事及びその事前学習、事後学習を通して多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。

イ 英語教育の内容をより一層充実させる。

「高い志」を涵養し持続させるための取組みを継続発展させる。

ア 卒業生人材ネットワークを拡大し、卒業生による支援体制を強化する。

大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」

京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」

関東方面への大学見学会「東京スタディツアー」

第1学年対象の「スプリングセミナー」

第2学年対象の「オータムセミナー」

イ 課題研究等を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、大学での学びにつなげる。

東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数合計 120 名以上（平成 30 年度（平成 31 年度入試）137 名）を維持する。

高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合 90%以上（平成 30 年度 91%）を維持する。

2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築

授業重視と自学自習の意識を高める。

3年間を通した育成計画「北辰プロジェクト」を充実させるとともに、それに基づいて生徒にめあてを提示する。

学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。

ア リーダー育成研修を継続させる。

イ 理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。

1, 2年生の一年間の読書量一人当たり平均 10 冊以上（平成 30 年度一人当たり平均 13 冊）を維持する。

3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築

学校行事を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（違いを認め共に生きる力、協調性、豊かな感性）

部活動を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（健康・体力の向上）

生徒会活動を中心に、生徒自らが規範意識やモラルを高めることができる取組みを実施する。

地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり平均年間 1.0 回以上となるようにする。

4 教員の授業力向上のためのシステムの構築

教科会議の充実（教科の目標設定と総括、研究授業）・相互授業見学の充実・大学等との連携の深化

授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均 88%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒版】</p> <p>・「学校に行くのが楽しい」「学校生活についての先生の指導には納得できる」という設問に対する肯定的な回答はともに 91%と高い数値を示している。また、「担任の先生以外にも、気軽に相談できる先生がいる」という設問の肯定的回答は 71%、「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」という設問では肯定的回答は 92%であり、生徒たちが、自主自律の精神を深化させながら、充実した学校生活を送っていることがうかがえる。今後も教育相談体制も含め、生徒指導を引き続き充実させていくことが大切である。</p> <p>・「将来の進路や生き方について考える機会がある」という設問に対する肯定的な回答は、昨年同様 92%と高い数値であり、今後も、生徒の「高い志」を涵養するための取組みを継続発展させていくことが必要である。</p> <p>【保護者版】</p> <p>・本校のさまざまな取組みについて、肯定的回答は高大連携に関する設問では 99%、その他の設問についてもすべて 98%と高い数値であり、保護者に高い割合で支持されていることがうかがえる。今後もさらにそれぞれの取組みを充実させていくことが必要である。</p> <p>・「生徒は、授業がためになると言っている」という設問に対する肯定的回答は 89%（昨年度 84%）であった。引き続き、生徒保護者の授業への信頼度を高めるため、教員の授業力向上のための取組みの内容をより深めていくことが必要である。</p>	<p>第 1 回（令和元年 6 月 8 日（土））</p> <p>・「卒業生講座」「東京スタディツアー」等は、生徒たちにとって、自分の 20 年後、30 年後が見える取組みである。今後も生徒一人ひとりの進路選択をサポートする取組みを進めてほしい。</p> <p>・茨木高校の教育はタフさを育てる取組みであり、それは一生続く学びである。今後も、人との出会いのつながりをたいせつにし、そのつながりが生かせる学びを充実させてほしい。</p> <p>第 2 回（令和元年 10 月 5 日（土））</p> <p>・「北辰プロジェクト」は、3年間を通した育成計画を明示することで指導する教員の「目線」を合わせることができる、たいへんよいシステムだと考える。</p> <p>・茨木高校では、学級編成を文系・理系と分けることなく、あえて文理混合にすることで、さまざまな科目を選択しているクラスメートの中で学ぶ環境となり、生徒たちの「多様性」を育てていると考える。</p> <p>第 3 回（令和 2 年 2 月 15 日（土））</p> <p>・第 2 学年の「英語表現」で実施しているディベートをさらに、発展させていくことが大切である。グローバルリーダーとして、英語でのコミュニケーション能力を身に付けることは大切である。また、ディベートでは、個人としての自分の意見とは違う立場の意見を主張しなければならないこともあり、相手の立場に立って考えるという学習にもなる。現在は、小学生からディベートを経験していることが多いため、高等学校では、さらに発展したディベートの取組みを進めてほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築</p>	<p>「グローバル」に視点を置いた取組み</p> <p>ア Brothers & Sisters プログラム及び事前学習の充実、海外宿泊野外行事及び事後学習の充実</p> <p>イ 英語教育の内容のさらなる充実</p> <p>「高い志」を涵養し持続させるための取組み</p> <p>ア 卒業生との連携の強化による取組みの充実</p> <p>イ 課題研究の充実</p>	<p>ア 長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第1学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流により、アジアを中心とした異文化理解や他国理解を深める。また、生徒の企画運営による事前学習を重ねて、宿泊野外行事へとつなげる。 第2学年の宿泊野外行事においては、学校交流とともに現地日本企業等の協力による取組みを重視する。また、事前学習や現地で学んだ内容を課題研究等につなげる。</p> <p>イ 4技能(5領域)を総合的に育成する英語教育の確立に向け、授業内容をさらに充実させるとともに、外部検定を活用する。また、英語イマージョンプログラムを継続発展させる。</p> <p>ア 本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。 ・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。 ・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。 ・関東方面への大学見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする。</p> <p>イ 大学の先生等の協力を得ることによって、2年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。</p>	<p>ア・交流する大阪大学等留学生数50名以上(平成30年度60名) ・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90%以上(平成30年度97%)</p> <p>イ・イマージョンプログラムへの参加生徒80名以上(平成30年度100名) ・参加生徒のアンケートにおける満足度90%以上(平成30年度98%)</p> <p>ア・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数8以上(平成30年度10) ・卒業生の研究室訪問8か所以上(平成30年度10か所) ・関東方面への大学見学会の参加生徒20名程度、支援する卒業生20名以上(平成30年度参加生徒9名、支援する卒業生30名) ・各取組みに対する生徒の満足度90%以上(平成30年度学問発見講座94%、卒業生講座97%、卒業生の研究室訪問99%、関東方面への大学見学会100%)</p> <p>イ・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数20回以上(平成30年度26回)</p>	<p>ア・モンゴルからの長期留学生(4月から7月まで)1名を受け入れ、留学生が7月に全校集会で発表を行った。また、11月にインドネシアからの研修旅行生を第1学年で受け入れた。Brothers & Sisters プログラムにおいては、第1学年の生徒が小グループに分かれて、主にアジアからの大阪大学留学生60名と交流した。() ・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度は99%であった。()</p> <p>イ・英語科教員が日々互いに授業見学を行い、授業内容のさらなる充実を図った。英語イマージョンプログラムへの参加者は、1年生対象の(12月実施)87名、2年生対象の(1月実施)7名であり、満足度は、それぞれ98%、100%であった。()</p> <p>ア・24名の卒業生等を招いて学問発見講座や卒業生講座を実施する予定であったが、10月に予定していた卒業生講座(10講座)は、台風19号に伴う暴風警報発令のため、中止となった。また、学問発見講座や卒業生講座以外に社会で活躍する卒業生の講演会を2回実施した。() ・卒業生の研究室訪問を10か所実施し、128名の生徒が参加した。() ・関東方面への大学見学会に16名の生徒が参加した。またその際、東京在住の卒業生30名との交流の機会も設けた。() ・各取組みに対する生徒の満足度は、学問発見講座93%、卒業生の研究室訪問99%、関東方面への大学見学会97%()</p> <p>イ・京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター(CAPE)と和歌山県立自然博物館、九州大学大学院教授、九州大学准教授等のご理解を得て、課題研究や課題研究につながる授業に、のべ30回協力していただいた。()</p>
<p>2 3 「二兎を追うたくましさ」を育成する教育システムの再構築</p>	<p>「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成</p> <p>ア リーダー育成プログラムの充実</p> <p>イ リーダー育成プログラムの充実</p> <p>「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成</p> <p>ア 地域とつながるこころの育成</p> <p>イ 自学自習の精神の育成</p>	<p>ア 各部・同好会の部長等に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。</p> <p>イ 部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的実施する。健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。</p> <p>ア 生徒に地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神のさらなる育成をめざす。</p> <p>イ 自学自習の精神の育成のため、担任、教科担当者、部顧問からの指導を徹底する。そのための支援として自習室を開設する。また、読書指導を推進する。</p>	<p>ア・リーダー育成プログラムの実施回数10回以上(平成30年度11回) ・参加生徒のアンケートにおける満足度80%以上(平成30年度87%)</p> <p>イ・リーダー育成プログラムの実施回数10回以上(平成30年度11回) ・参加生徒数のべ850名以上(平成30年度878名) ・支援する理学療法士のべ160名以上(平成30年度168名) ・日本スポーツ振興センター手続き件数100件以下(平成30年度86件)</p> <p>ア・地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり年間1.0回以上</p> <p>イ・一人当たりの平均読書量年間10冊以上(平成30年度13冊)</p>	<p>ア・年間12回実施し、のべ831名の生徒が参加した。外部講師による講演の満足度は、97%。()</p> <p>イ・年間11回実施し、のべ830名の生徒が参加した。また、のべ138名の理学療法士に指導していただいた。なお、年間の日本スポーツ振興センターの手続き件数は102件である。(昨年度同期間の手続き件数は86件。)()</p> <p>ア・地域と連携した活動等への参加回数は年間生徒一人当たり1.0回。()</p> <p>イ・一人当たりの平均読書量は年間15冊。()</p>
<p>4 教員の授業力向上のためのシステムの構築</p>	<p>授業力向上のためのシステムの充実</p> <p>ア 教科会議の充実及び研究授業の実施</p> <p>イ 教員相互の授業評価の充実</p> <p>ウ 管理職による授業評価の充実</p> <p>エ 「働き方改革」の推進</p>	<p>ア 大学入学共通テスト、次期学習指導要領等の研究を進め、臨機に対応する。また、主体的・対話的で深い学びを推進するための研究、実践をさらに進める。</p> <p>イ パディシステムを継続実施し、互見授業により教員の授業力を向上させる。</p> <p>ウ 全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。</p> <p>エ 「働き方改革」の方策を検討するための核となる組織の会議を定期的開催する。</p>	<p>ア・主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業年10回以上</p> <p>イ・互見授業教員一人当たり平均年2回以上(平成30年度2.2回)</p> <p>ウ・生徒からの授業信頼度88%以上(平成30年度88%)</p> <p>エ・組織の会議年5回以上開催</p>	<p>ア・研究授業は年間21回実施した。また、教科会議においては、教科指導の内容についての意見交換、授業アンケートの結果の分析等、授業力向上のための議論ができていた。()</p> <p>イ・互見授業は、年間教員一人当たり平均2.5回である。教員の授業力のさらなる向上のため、引き続き実施したい。()</p> <p>ウ・全教員の授業を観察し、各授業終了時に生徒へのアンケートを実施し、年2回実施している授業アンケートとともに教員が生徒の状況を把握し、授業改善策を考える材料とした。生徒からの授業信頼度は89%であった。()</p> <p>エ・「働き方改革」に関する会議を6回開催。各種会議の時間短縮(1限65分中50分で実施)や、職員会議資料を電子データで共有し、印刷物を減らす等に、引き続き取り組んでいく。()</p>